

学校における放射線対策についても聞きました！

学校給食の放射線測定器購入へ

赤ちゃん用の粉ミルクからも放射性セシウムが検出され、食品の安全性についての不安が高まっています。

日本共産党市議団は、原発事故後いっかんして学校給食のきめ細かな放射線測定を要望してきました。

市は8月から、独自に伊勢崎産野菜の測定を、外部委託で開始しています。

さらに、このほど市は、調理済みの給食や食材の放射線測定回数を増やすため、自前の測定器の購入を決めました。

10〜20ベクレル/kgの検出限界ならば、20分くらいで測定できる性能とのこと。教育委員会は、「できるだけ多くの測定をしたい。20時間かければ1ベクレルまで測れるが、検出限界をどこにおけば効率的



に活用できるか検討する。」と述べています。

なお、教育委員会では、「それでも不安」という保護者・子どもさんに対しては、学校に申し出れば給食を食べない、牛乳を飲まないなどの選択も可能としています。

中学校に放射線量測定器を配備

北島議員は一般質問で、「子どもが被ばくを少なくするために、

参加させることも提案しました。市教育委員会は、中学校に放射線測定器を1台ずつ配備する考えを明らかにしました。前橋市のように中学校以外の全ての学校にも配備するように、求めたいと思います。

耳が遠い人のため公共施設に磁気ループを

老齢や難聴などで耳が遠くなり、社会参加の障害になっている人がいます。補聴器をつけていても、おおぜいの人が集まるところでは周りの雑音が入り、目的の音を拾うことが難しくなります。「磁気ループ」システムを導入すると、マイクの音声を直接信号に変えて補聴器に届けてくれるので、雑音の無いきれいな音声で聞くことができます。このシステムの公共施設への設置を、提案しました。

「有効な設備なので、聴覚障害者の皆さんの意見や他市の設置状況などを調査し、研究したい。」との答弁がありました。



救援募金・支援物資のご協力、ありがとうございました。 トラックで仙台へ届けました！

募金全国9億3千万円、伊勢崎佐波地区110万円 救援物資は仙台市宮城野区 若林区へ

日本共産党に寄せられた救援募金は、この間5次に渡り多数の自治体・農協・漁協・商工会議所・商工会・消防団などに直接届けられ、被災地を大きく励ましてきました。また、支援物資も継続して届けられています。

11月2日、伊勢崎佐波地区からもボランティア6人が多くの皆さんから寄せら

高圧ホースでトレイの泥を落とす北島市議



れた寒い冬に向けての温かい支援物資（ストーブ・カーペット・こたつ・お米・衣類など）を2トントラック一杯に積んで、日本共産党仙台東部支援センターに向いました。

多くの被害者を出した荒浜地区などのある宮城野区・若林区の被災者の皆さんに、無料バザーなどで物資をお渡ししました。

3日・4日には、津波被害にあった園芸農家のハウスで、ボランティア活動を行いました。

東北はこれから寒い冬を迎えます。引き続き救援募金・支援物資（現地から要請があるもの）のご協力をお願いしています。日本共産党市議までご連絡ください。

前橋市新清掃工場問題 反対する会が結成される



前橋市が伊勢崎市に隣接する下増田町に計画している新清掃工場の、環境影響調査の結果が公表されました。8月の公聴会では、公述人となった16人全員が反対の意見を述べました。しかし、前橋市が開いた説明会では、この意見には全く聞く耳を持たず計画を強行する姿勢です。

三郷地区の区長や市議の呼びかけで、10月に「前橋市新清掃工場建設に反対する会」が結成され、伊勢崎の五十嵐市長と県知事に対して要請書が提出されました。

この要請に対して五十嵐市長は、「基準をクリアして、見直すべきです。」

